

# La Movado

Fondita en 1951 N-ro 761 julio 2014

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ  
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO  
Tohurô minami 2-8-7, Dazaihu-si, Hukuoka-ken, 818-0105

ESPERANTO-LIGO de TYÛGOKU kaj SIKOKU  
Ôgonzan-tyô 7-15, Minami-ku, Hirosima-si, 734-0041

## ENHAVO

第62回関西エスペラント大会に305人	1-2.8
楽しい作文教室(37)	塚本猛 3
Kajero libervola: Kelkaj kazoj de oportuna uzo de interreto	
	AIKAWA Setuko 4
対訳:「おさなき燈台守」(2)	竹久夢二/沖恵明 5
2013年度 KLEG 活動報告	6-8
2014年度 KLEG 活動方針、役員	8
Japanaj Malnovaj Rakontojより(7) 鶯姫	9
Salono: 庄山美喜子	10
語尾なし単語の使い方(19)	相川節子 10
KER 試験受験記	木元靖浩 11
Esperanto-Seminario	KIRIYAMA Masaaki 11
Vortaro por lernantoj(142)	Laŭlum 12
La Movado: 東北エスペラント大会、下関市で講習会、 Rezaさん、KLEG 林間学校予告ほか	12-13
Enigma/作文教室成績	14
KLEG 事務局だより	14
計報: 前田米美さん	14
Mikspoto/作文教室課題	15
編集ノート	16

## 柳田國男からマンガまで、充実の公開番組

# 第62回関西エスペラント大会に305人

5月31日・6月1日の両日、第62回関西エスペラント大会が姫路市の「イーグレひめじ」で開催された。

この大会は毎年、関西エスペラント連盟(KLEG)と開催地のエスペラント会との共催で実施されているが、はりまエスペラント会が引き受けたのは前身の姫路エスペラント会の時期を含め、46年ぶり。はりまの会員の熱意と、それを応援する各地のエスペランチストの気持ちの高まりの結果、質量ともに充実した大会が実現した。NHKの大河ドラマの舞台が今年は姫路になったことは、「歴史と文化の町姫路にエスペラントの風を!」という大会テーマに重なった。

この大会では、関東エスペラント大会と合同でインドネシアから Reza Pahlevi さん(21歳、学生)が招かれ、各種番組に参加した。

### 公開番組

1日目の午後、公開入門講座が行われた。講師は森川和徳さんで、自作の教材を使用し、ABCからエスペラントを説明した。受講者は13人で、そのうち5人が



Fotis Arai Tôsinobu

一般参加者だった。

2日目の午後には「講演とコンサート」。

まず大阪観光大学教授の橘弘文さんが「柳田國男とエスペラントの人びと」というテーマで講演。姫路近郊の神崎郡で生まれ育った柳田が、農商務省(当時)の役人として全国を訪ねる機会に恵まれ、民俗学の研究を始めたこと、佐々木喜善・ラムステッド・比嘉春潮・宮沢賢治など同時代のエスペランチストと親しい交流があったこと、国際連盟委任統治委員会の委員として活動した時に、英語やフランス語が母語でない者がこうむる不利を感じたであろうことなど、次々に具体的なエピソードを紹介しながら柳田の言語観を浮き上がらせた。

次にシンガーソングライターの野田淳子さんが、和

服姿でギターを手に登場。「大きなうた」「私と小鳥と鈴と」「死んだ男の残したものは」など5曲をエスペラントと日本語の両方で歌った。野田さんは自分が演奏するだけで

なく聴衆にも歌わせる演出で会場をなごやかにした。

最後は Aleksandra 綿貫さんの講演「現代ポーランドに与えた日本文化の影響」。夫の綿貫健一郎さんが通訳をした。ポーランド統一の1919年に早くも日本語学部がワルシャワ大学に設けられたこと、ワイド監督が日本文化を評価して何度も来日したこと、柔道がポーランドで教えられていることなど、日本人があまり知らない文化交流が語られた。

綿貫さん夫婦は友人と出版社をたちあげ、日本のマンガをポーランド語で出版している。その作業過程を十倍速の映像で見せたのは圧巻だった。

「講演とコンサート」の司会は中村雅子さんと松田洋子さん。この番組には一般市民50人が参加した。

### 開会式・閉会式

開会式は1日目の午後、後藤美和さんの司会で行われた。物故者への黙祷、大会会長稲田正昭さんのあいさつ、KLEG 会長田熊健二さんのあいさつと続いた。KLEG 賞が長年林間学校の世話役を務めた田中一喜さんに、そして KLEG 奨学金が日エス辞典や La Movado バックナンバーの DVD を発行した福本博次さんに贈られた。九州エスペラント連盟の野村忠綱さん(代読盛脇保昌さん)、中国四国エスペラント連盟の木谷奉子さん、日本エスペラント協会代表鈴木恵一朗さん(代読森川和徳さん)、そして福島の方崎陽子さん、青年代表の白川友磨さんがあいさつ。そして KLEG 加盟の17 ロンドの代表が壇上で順番にあいさつをした。最後に山田義さんの指揮・中村雅子さんのピアノで全員が La Espero を歌った。

2日目の閉会式の司会は ĈE Juna さん。塚本猛さんが、全体の参加者数と公開番組に多くの一般市民が参加したことを報告、大きな拍手が起こった。KLEG 役員を紹介に続いて、この大会の実行委員のメンバーが壇上に上がり、ひとりひとりが紹介された。KLEG 旗が大会会長の稲田さんから次期開催地京都エスペラント会会長の笹沼一弘さんに手渡され、全員で La Tagiĝo を歌って閉幕となった。

### Gaja Vespero (楽しい夕べ)

はりまエスペラント会会員の寸劇「誰が盗んだか」はユーモラスな演技で会場が何度も笑いにつまれた。女性コーラスが「かたつむり」「はるかな友へ」など4曲を歌い、増井正典さんたちが武道「和良久」の演技をみせ、斎木彰さんが「荒城の月」を歌った。松田洋子さんが中島敦「山月記」の宮本正男による訳を

朗読、島谷剛さんと岩田好兼さんが新作狂言「ザメンホフ」を演じた。最後に田平正子さんによるエスペラントグッズのオークション。売上金 22700 円は釜石市の被災小中学校に送られた。司会は ĈE Juna さん。

### 併行番組と分科会

Reza Pahlevi さんが Pri la Esperanto-Movado en Indonezio のテーマで講演した。昨年初めてのインドネシア大会が開催されたことや、自分が住む町マダンとほかのいくつかの地域での活動を、プロジェクトで映写しながら紹介した。犬丸文雄さんが通訳した。

藤巻謙一さんの「エスペラント独習のすすめ」では、団体の例会で勉強するだけではなく、自宅でひとりで学習する大切さと、その方法が話された。

後藤美和さんは「初期のエスペラント運動における『観光』」のテーマで、戦前のエスペランチストが運動の中で観光をどうとらえていたかを、具体的な名前をあげて話し、柳田國男にもふれた。

大会恒例となったミニ大学では、竹森浩俊さんが「天平時代に栄えた仏像芸術」、森川和徳さんが「ウィキペディアを編集しよう」のテーマでエスペラントで講演した。

学習番組は、新聞紙を使った忍岡妙子さんの「S-ro Papero」、Aleksandra 綿貫さんとの会話練習、Atilio Rojas さんによる会話指導、相川節子さんの「語尾なし単語いろいろ」があった。

ホールではほかに学習 DVD 「Pasporto al la tuta mondo」の上映、若い人たちのバンド演奏「けーおんバンド」、「みんなで歌おう」があった。

分科会は「科学者・医学者」「民際交流とアジアの運動」「エスペランチスト九条の会」「大本」「人類愛善会」が行われた。

### Bankedo

1日目の夜、大会会場近くの「総社会館店」に79人が集まり、料理と談話を楽しんだ。

### 特別番組：こどもの交流集会

木谷奉子さんと忍岡妙子さんの指導で、5歳から高校生まで約20人のこどもたちがゲームを楽しみ、Reza Pahlevi さんにインドネシア風じゃんけんを教わった。また、スカイプでロシアのこどもたちと交流した。

### 大会遠足

1日目の午前、約30人が塩谷誠さんの案内で会場近くの姫路城を訪れた。

(p.8 に続く)



①ピンを捨てないでリサイクルしよう!

【訳例1】Ni recikligu botelojn anstataŭ forĵeti!  
(CA)

【訳例2】Ne forĵetu botelojn, sed recikligu ilin.  
(AG)

【訳例3】Ne forĵetu uzitajn botelojn, sed recikligu!  
(Eiko)

リサイクルする:recikligi。

「ピン」とカタカナで書いたためでしょうが、これを「ピン」(pinglo)と間違えた解答がありました。日エス辞典を引くときは注意しましょう。この課題では「瓶(びん)」(液体などを入れる容器)の方なので、botelo で良いと思います。訳例3のように形容詞を追加した解答もありました。uzita(使用済みの)、malplena(からの)、vaka(空いている)ですが、最後の vaka は使わない方が良いでしょう。この単語は、la seĝo vakas(その席は空いている)のように、場所や地位が占められていない場合に使います。

「捨てる」は forĵeti ですね。「～しないで」については、anstataŭ(～の代わりに)、sed(～しないで)で良いでしょう。でも、sen(～なしに)にするのは考えものです。sen forĵeti ilin だと、「そんなものを捨てもしないで」と言っているような感じがします。捨てるほうが良いと思っているのに捨てない時の言い方ではないでしょうか。

②多くの人が彼の意見を支持する。

【訳例1】Multaj subtenas lian opinion.(水渡, Kiri)

【訳例2】Multaj homoj subtenas lian opinion.  
(Eiko, Ĉielo, AG, Drako, alfa, ikona, CA, Dallengji, festo, ヒー坊)

【訳例3】Multe da homoj subtenas lian opinion.  
(M.H., Fumi, Lv-rivero)

【訳例4】Multaj personoj subtenas lian opinion.  
(T.Ku, Ivajo)

支持する:subteni, apogi。

この課題は応募された解答の種類が上記の4種類だけと少なく、異なり語数(使われている単語の数)は8でした。訳例1では「多くの人」の「人」を省略していますが、省略せずに homoj(人)や personoj(人 La Movado 761

物)を使うこともできます。訳例3のように multe da を使う場合には、da の後の名詞は省略しません。

例にはありませんが「意見」として、vidpunkto(観点)、komento(論評)が考えられます。また「支持する」のほうは apogi(支持する、ささえる)、aprobi(賛同する)でも良いと思います。

③彼は晴れ晴れとした声で話した。

【訳例1】Li parolis per serena voĉo. (AG, Drako, Kiri, CA, Dallengji, ヒー坊)

【訳例2】Li parolis serenavoĉe. (Eiko)

【訳例3】Li parolis en klara voĉo. (M.H.)

晴れ晴れとした:serena。

「晴れ晴れとした」は、心配事などなく気分がすっきりとしているさまを言います。serena は、雲や風がない静かな状態、不安にさせるものがない状態です。晴れていて澄みきった空のようすを考えると、klara(はっきりした、明るい)も考えられます。

「話す」は paroli が使えます。elparoli(発音する)も、何か特有の話し方の場合であれば使えると思いますが、ここは paroli で良いでしょう。なお、訳例3の前置詞 en については per を使うほうが良いと思います。具体的な伝達手段としての「声」に重点を置いているので per(～を使って)にします。抽象的な方法、手立てとして、晴れ晴れとしたように聞こえる「話し方」ならば en(～で)だと思います。

④彼は試験に合格するだろう。

【訳例1】Li sukcesos en la ekzameno. (Kiri, Fumi)

【訳例2】Li sukcesos trapasi la ekzamenon. (Ĉielo, Drako, 水渡, ikona, M.H., Dallengji)

【訳例3】Mi certas, ke li sukcese trapasos la ekzamenon. (Ivajo)

合格する:sukcesi(成功する、成し遂げる)。

「試験」は ekzameno で良いでしょう。訳例1では sukceso により試験に成功する、試験でうまくいくだろうと表現しています。もし落ちると言いたいのなら malsukcesi(失敗する)にします。訳例2は sukceso trapasi ekzamenon を使って、試験を通過するのに成功する(試験に合格する)だろうと表現しています。訳例3も trapasi を使った例です。trapasi だけだと試験を終えるところまでで、試験に合格したかどうかまでは分かりません。こちらは sukceso を副詞の sukcese にして合格を表現しています。

成績は 14 ページ、9月号の課題は 15 ページ

自分の身の回りで起こったことで、インターネットを便利に使った例を紹介する。

Unu el miaj kuzoj loĝas en Kalifornio, Usono. Lia pli juna frato loĝas en Kioto, Japanio. La pli juna zorgadis sian malsanan patrinon, kiu forpasis en la lasta majo.

La du fratoj ĉiam interkomunikis per Skajpo. Estante en Kalifornio, la pli aĝa povis vidi la vizaĝon de la patrino kaj interparoli kun ŝi ĉiutage pere de la sistemo. Tio daŭris ĝis la antaŭlasta tago de ŝia vivo.

Ŝi mortis en frua mateno kaj la filo sukcesis akiri flugbileton al Japanio en tiu tago. La du fratoj kune laboris por la funebra aranĝoj.

En la fino de la funebra ceremonio la pli juna kun larmoj salutis al la ĉeestantoj kaj diris, ke dum unu tuta jaro li flegadis la patrinon kaj li havis tre bonajn tagojn.

Post la ceremonio la parencoj babilis kun la fratoj, kaj mi estis inter ili. Tiam mi eksciis, ke la pli aĝa filo komunikadis kun la patrino per Skajpo. Laŭ lia paroltono mi sentis, ke la du animoj estis unu apud la alia, kvankam la korpaj estis malproksimaj unu de la alia trans la oceano.

Interreto ligas disigitajn parencojn. Mi trovas unu ekzemplon tre proksime al mi mem.

Mi eksedziniĝis kiam la plej aĝa el la gefiloj estis 6-jara. Mi vivis kun la gefiloj kaj ili havis rendevuon kun la patro de tempo al tempo. Baldaŭ la patro ekhavis novan hejmon. La gefiloj havis ŝancon pasigi tempon kun li preskaŭ ĉiujare, sed fari kontakton de ilia flanko fariĝis ne facile.

Pasis jaroj, jardekoj. Poŝtelefono rapide disvastiĝis kaj mia pli aĝa filino komencis

telefone kontakti kun la patro. Ĝis tiam ŝi hezitis telefoni al lia domo, ĉar tie loĝas lia dua edzino kaj novaj filinoj. Doma telefono apartenas al familio, sed poŝtelefono apartenas al persono. Ŝi nun povis senĝene telefoni al la patro.

Iom poste ŝi informiĝis, ke la patro komencis skribi blogon. Nun pere de lia blogo ŝi scias, kiel fartas kaj kiel vivas la patro.

Disiĝo de geedzoj fariĝas pli kaj pli ofta. En ĉiu kazo, rilato inter patr(in)o kaj disigita infano estas grava problemo, se la paro havas infano(j)n. Nun dank' al poŝtelefono kaj interreto interkomuniko de disigitaj parencoj fariĝis pli facila ol antaŭe.

Rilate al interreta komuniko mi vidis interesan kazon lastatempe. La afero ne rilatas al parencoj, sed pri komuniko inter nekonatoj.

En iu tago mi staris ĉe la pordo de teatro Takarazuka. Apud mi staris mezaĝa virino. Juna viro alkuris kaj alparolis al la virino, "Saluton! Ĉu vi estas s-ino X?" La alparolato respondis, "Jes! Vi do estas s-ro Y?" Mi ne intencis aŭskulti, sed nature la interparolo aŭdiĝis. La viro havis planon spekti teatraĵon kun sia amikino, sed post aĉeto de la biletoj montriĝis, ke ŝi ne povos veni. Li deziris al iu vendi la bileton aĉetitan por la amikino. Pere de interreto — mi ne scias, kian retpaĝon aŭ retgrupon li uzis — li trovis personon, kiu deziras ricevi la bileton kontraŭ adekvata pago. La du nekonatoj renkontiĝis ĉi tie.

Ankaŭ mi mem spertis vendon kaj aĉeton de teatra bileto per interreto. Sed mi unuafoje vidis, ke oni ĝuste antaŭ la enirejo de teatro transdonas bileton.

Interreto havas ankaŭ multajn malbonajn flankojn, mi scias. Estas multaj kazoj, en kiu interreto malfeliĉigas homojn. Sed ĉi tie mi prezentas nur ekzemplojn de oportuneco, kiujn mi mem spertis.

## おさなき燈台守

(2)

竹久 夢二

2

「はい」

健気(けなげ)な姉娘の須美は父の声の下(もと)に立ち上がると

「姉さん、僕も行くよ」

と弟の摩耶は後ろについた。

浜へ出て見ると、果してそこの砂浜の帆柱(マスト)の折れたような木に、水兵の着る赤いジャケットが絡みついているのが見えた。二人はそれを持って急いで帰った。父はそれを見るや否や、

「あまたやられたか」と言っ「俺(おれ)はこうしては居られない。直(す)ぐに救いのボートを出すから、須美は村の者に直ぐこのことを知らせるよう、それから摩耶は櫓の上で霧笛を吹いているんだぞ、しっかり吹かないと、お父さんまで難船してしまうぞ。好(よ)いか」

「大丈夫お父さん」

摩耶は元気よく答えた。

「それじゃ往(い)って来るぞ」

そう言っ父はもうボートを卸して、暗い波の上へ乗り出した。

「じゃ摩耶さん、あたしも村の方へ行っ来てよ。霧笛は大丈夫? ……しっかり頼んでよ」

「日本男児だ!」

「本当にお父さんはじめ、難船した人達のためなのよ。しっかりやっ頂戴(ちょうだい)」

姉は流石(さすが)に女の気もやさしく、父の身の上、弟のことを気づかい乍(なが)ら、村の方へ走っで行った。この燈台から村へは、一里に余る山路である。

(続く)



## Eta gardisto de la lumturo

(2)

de TAKEHISA Yumezi  
tradukis: OKI Keimei

2

"Jes," brava pliaĝa fratino *Sumi* stariĝis laŭ la ordonvoĉo de la patro.

"Fratino, ankaŭ mi iros."

Ŝia frato *Maya*(Maja) diris kaj sekvis ŝin.

Kiam ili alvenis al la marbordo, kiel la patro diris, tie ili trovis, ke ruĝa jaketo, kian portas marsoldato sur si, alkroĉiĝis al la ligno, simila al rompita masto, sur la strando. La du kun ĝi tuj reiris al la lumturo. Apenaŭ la patro vidis ĝin, li diris: "Aj! Refoje okazis rompiĝo de ŝipo pro rifo, mi kredas." "Mi ne povas nur staradi ĉi tie. Mi tuj remos por savi suferantojn pro rompiĝo de ŝipo. *Sumi*, vi tuj sciigu la aferon al la vilaĝanoj. Kaj, *Maya*, vi blovu la nebulkornon sur la observejo de la lumturo. Vi forte blovu ĝin, aŭ mi perdos la direkton kaj eĉ boato de mi, via patro, erare grundigos sur rifo kaj certe rompiĝos. Ĉu vi komprenas?"

"Jes. Konfidu al mi, patro!"

*Maya* vigle respondis.

"Do, mi iros."

Tion dirinte, la patro flosigis boaton kaj ekremis sur ondoj en mallumo.

"*Maya*, mi iros al la vilaĝo. Ĉu vi havas memfidon blovi la nebulkornon? …… Mi konfidas vin!"

"Mi ja estas kuraĝa japana viro!"

"Tio estas vere por la patro kaj homoj de la rompita ŝipo. Laboru kuraĝe!"

La fratino, kiel atendite, kun delikata virina koro zorgis pri sekureco de sia patro kaj pri sia frato, kaj kuris al la vilaĝo. La vojo de la lumturo ĝis la vilaĝo etendiĝas monta vojo je la distanco de pli ol unu rio>(\*1). (daŭrigota)

\*1) unu rio

"Rio" estas unu el japanaj mezurunuoj pri distanco. Unu rio egalas al 3.927 kilometroj.

## 2013 年度 KLEG 活動報告

2013 年は、国内大会としては世界に先駆けて第 100 回の記念大会を迎えた。この大会に合わせて『日本エスペラント運動人名事典』が一般書店から出版され、高い評価を受けている。

### 1. 各種行事

第 61 回関西エスペラント大会は、5 月 25 日・26 日に和歌山市民会館で開催され、200 人が参加した。韓国の So Gilsu (徐吉洙) さん、中国の Sun Mingxiao (孫明孝) さんを招いた。アルゼンチン出身の Atilio Orellana Rojas さんも参加した。

公開講演会は、So Gilsu さんが中津正徳さんの通訳で「韓国側から見た『沙也可』」のテーマで講演し、当時の韓国の人たちが沙也可を高く評価していたことを語った。あいだに「とらふす少年少女合唱団」のコーラスが入り、地元「雑賀衆・沙也可で街おこしの会」会長の辻健さんが「四百年の時を越えて今『沙也可』がよみがえる」と題して、沙也可の時代の日本・中国・朝鮮の政治情勢や、沙也可が和歌山の雑賀孫市郎だという説が有力であると語り、沙也可を通しての日韓交流の状況などを話した。地元の市民約 30 人が聴講した。和歌山緑丘会が、日ごろから地元の人たちと連帯しながら活動していることを感じさせた。

Sun Mingxiao さんは、世界遺産泰山を初めとする山東省の魅力を紹介し、ついで棗庄大学内に開設されたばかりの世界語博物館の館内画像を見せながら披露した。また、いかにして大学に「エスペラント研究」を導入したかを語った。

三好鋭郎さんは「人生をかけて、不可能を可能に」というテーマで、エスペラントの宣伝のためフランスでの講演旅行や EU の議員に働きかけたこと、ポーランドでのシンポジウムに尽力したことなど、スケールの大きい活動を語った。

第 45 回エスペラント林間学校は、2013 年 9 月 14 日～16 日豊中市の善き牧者愛徳の聖母修道会修道院で開かれた。参加者は講師・受講生などをあわせて 36 人。講師として韓国から 10 代の男性、KIM Gunwoo さんと SHIN Young さんを中級会話クラスの講師として招待した。彼らは分科会の「韓国語入門」も行った。たまたま訪れた 20 歳のイギリス人学生 Rowland Goodbody さんが初級会話ク

ラスの講師の代役をし、分科会の「外国人と話す会」も担当した。クラスは、「初級輪読」(島谷剛)、「上級翻訳」(タニヒロユキ)もあった。他の分科会や Gaja Vespero も行なわれた。

第 100 回日本大会は、10 月 12～15 日に東京都江戸川区のタワーホール船堀で開催された。100 回記念で会期も 1 日増やされ、参加者は不在参加者も含めて 719 人と、エスペラント発表 100 周年の第 74 回大会(1987 年、東京)に匹敵する参加者数であった。海外からの参加者も 40 人以上と多かった。番組は多彩で、公開番組が 6 つもあり、また「展示」が一般公開され、外に開かれた大会であった。大会を盛り上げるために KLEG 有志は協力の一環として、会員に呼びかけて寄付を募り、バンケードの参加者に樽酒を寄贈して鏡割りをし、栴酒をふるまった。日本では祝いの宴席で鏡割りをする文化があることを外国からの参加者に体験してもらった。

### 2. アジアとの連携

関西大会では中国・韓国から 1 人ずつ招待し、林間学校では韓国から 2 人招待して、アジアのエスペランティストとの交流に努めた。

### 3. その他の KLEG の活動

『人名事典』を出版するに当たり、KLEG としても応分の寄付を行い、会員が求めやすい特別価格にするのに寄与した。

大阪国際交流センターで行われた「ワン・ワールド・フェスティバル」という国際協力のお祭りに KLEG として初めて展示で参加した。KLEG のブースにも多くの人が訪れ、1000 枚用意したチラシもすべて配り、手ごたえを感じた。

### 4. 加盟 Rond (地方会) の活動

入門講習会は 7 Rond が 1 日講習などさまざまな形で 12 回開催(受講者 21 人)し、エスペラントを広報する各種の展示会は、8 Rond がそれぞれに地元の市民文化祭などに参加してのべ 9 回開催した。ザメンホフ祭は単独または近隣 Rond による共同開催で、7 か所、のべ 95 人が参加した。

**池田:** 関西エスペラント大会・ザメンホフ祭でエスペラントの狂言を上演。エスペラント俳句を詠む句会を年 4 回春夏秋冬の季語で開いている。

**宇治城陽:** 例年は外国からの訪問者が 0～2 名だったが、今年度は 4、5、9、12 月に計 5 名が来訪し、

楽しい交流ができた。E版宇治観光案内を仕上げた。  
近江：会として近江兄弟社高校エスペラント愛好会をサポートして5年目になる。会員は3人でも学ぶ意欲は旺盛である。

大阪：会の中心的活動家、辰巳博さんが死去し、活動の更なる停滞の恐れがあったが、積極的に活動に加わる会員が現れ、例年並の活動が維持できた。

京都：入門講習会で3人の受講生を得た。また新しい試みとして、月に一度の日曜学習会を始めた。

神戸：『日本エスペラント運動人名事典』を兵庫県立図書館、神戸市立中央図書館、神戸外国語大学、神戸新聞の4ヶ所に寄贈した。

堺：入門講座を3月から開始。新会員1名入会。機関紙 FONTEJO を年4回発行。外例会「地域を学ぼう」を外国人エスペランチスト同行で1回実施。

吹田：「エスペラントふれあい講演会」として吹田市民文化祭に参加。斎藤和子さんの講演「フェアトレードのある暮らし」、Eと手話のコーラス。

高槻：9月に中国常州市世界語協会に招かれ、第8回中国花卉博覧会と第3回上海、江蘇、浙江3地域世界語フォーラムに代表2人が参加し友好交流した。

豊中：例会テキストとして、輪読（アラスカの駅伝）の他に、時事Eニュースを取り上げた。ERAJの沖田Eニュースを教材として利用し、好評である。

奈良：5月にエルサレムのアジア大会の報告を兼ねて「エスペラント体験会」を開催した。意外なことに会のホームページを見て1人の参加があった。

はりま：第62回関西大会の姫路市開催の準備を進めている。大会の公開番組に、姫路市文化国際交流財団からの助成を受けることが決まった。

枚方：『日本エスペラント運動人名事典』を2市の中央図書館に寄贈した。例会の出席者が減少しているが、在外会員とともにスカイプを利用するなど継続している。

和歌山：絵本「稲むらの火」を12の地方E会に贈り、地域の図書館・学校等で防災教育に役立ててもらったことになった。新聞報道でEの宣伝に役立った。

## 5. 各部署の活動

組織部：活動年鑑「Jarlibro 2013」を発行した。運動記事の収集で編集部に協力した。関西大会は組織部所管となり、はりまエスペラント会と共催の第62回大会に協力し、次期大会開催地の決定に協力

した。ワン・ワールド・フェスティバルに KLEG として初めて出展した。

国際部：エルサレムで開かれた第7回アジアエスペラント大会に、当初は Karavano を出す計画をしていたが、当地の政情不安からやむを得ず中止した。メーリングリスト「IETK」を教育部と協力して運用した。

図書部：関西大会に合わせて、「Kuru, Melos!」（太宰治「走れメロス」小西岳訳）を刊行した。また、タニヒロユキ『簡明エスペラント辞典第2版』、『エスペラント対訳宮沢賢治童話集第2版』を刊行し、「La Unua Kursolibro」を増刷した。柴田巖・後藤齊編『日本エスペラント運動人名事典』（ひつじ書房）を JEI の協力を得て特別価格で販売した。『図書目録 2014』を発行。メールによる新刊案内「Novaj Libroj」を適宜発信し、La Movado 誌に毎号図書広告を掲載した。

編集部：DTPソフト InDesign を使用した完全版下の作成は定着した。Kajero libervola の新しい執筆者の発掘にある程度成功した。宮本正男生誕100周年を記念して、「宮本正男の残したもの」を連載した。ネパール・中国・韓国・イスラエルからの執筆を得て、活動方針のひとつ「アジアのエスペランチストとの交流」の一翼を担った。編集部には1人、協力者1人が加わり、「編集部員の補充と編集体制の強化」は実現できた。

教育部：第45回林間学校を開催した。KER試験対策セミナーおよび模擬試験を計画したが、受講最低人数に達せず中止した。関西大会において教育番組の企画をした。

事務局：当直者・局員の継続した努力によって、連盟とモバード社の日常業務を遂行した。各種行事での図書販売や棚卸し、機関誌発行では会員有志の協力を得た。会員・読者管理システムの使用を開始した。パソコンを1台更新した。大会開催ロンドの要望により、関西大会の受付業務を行った。ホームページの維持更新やツイッターでの情報発信には、引き続き山野敏夫さんや峰芳隆さんの支援を得ている。

## 6. KLEG 賞・KLEG 奨学金

2013年度のKLEG賞は、十数年の長きにわたり、エスペラント林間学校を主宰してきた功績により、田中一喜さんに贈られる。

KLEG 奨学金は、長時間の忍耐力をもって『日本語エスペラント辞典』をパソコンで引けるようにデジタル化し、さらに機関誌“La Movado”創刊号から754号(2013年12月号)までをデジタル化して、エスペラント界に多大の便宜を与えた功績により、福本博次さんに贈られる。

## 7. 組織状況

加盟団体は引き続き次の17 Rond。芦屋、茨木、池田、宇治城陽、近江、大阪、京都、神戸、堺、吹田、高槻、豊中、長浜、奈良、枚方、はりま、和歌山(緑丘会)。2014年3月末現在の団体会員は272人(前年276人)、個人会員は72人(同61人)。

## 2014年度 KLEG 活動方針

1.  **Rond活動を工夫して活性化し、会員の増加を**  
従来実施してきた講習会や展示などの活動に加え、Rondの紹介、Rondの所在する都市の紹介をVikipedioに掲載する活動に取り組み、活動の活発化と会員増加につなげよう。
2.  **教育の推進と会員の能力向上**  
KER試験、合宿など学習の場を提供するほか、視聴覚教材を活用して楽しく学び、能力の向上に結び付けよう。
3.  **アジアのエスペランチストとの交流**  
関西大会にインドネシアの青年エスペランチストを招待する。これらの機会も有効に活用し、アジアのエスペランチストとの交流を積極的に進めよう。
4.  **青年エスペランチストに対する支援**  
青年奨学金や会費の半額割引など、青年に対する

支援を行っている。青年会員獲得のために大いに利用しよう。

## 5. 具体的事業計画

- (1) 第62回関西エスペラント大会
- (2) 第46回エスペラント林間学校
- (3) 活動年鑑 Jarlibro 発行
- (4) 出版：タニヒロユキ『簡明日エス辞典』。企画として“50 fabloj de Ezopo”および“Parolado de Zamenhof”の再版。図書目録2015。
- (5) La Movadoの定期(月刊)発行。
- (6) 第101回日本大会の開催に協力する。
- (7) 第100回世界大会旅行団を派遣する方向で検討する。
- (8) 加盟Rondにおいて適宜、例会、講習会、ザメンホフ祭、機関誌発行を行う。

## 2014年度の KLEG 役員 (敬称略)

名誉会長：小西岳  
顧問：赤田義久、大塚穎三、川野邦造、岸田準二、北さとり、竹花人、藤本達生、前川治哉、松原八郎、峰芳隆  
会長：田熊健二。副会長：相川節子。専務理事：中道民広。理事：磯貝尚武、染川隆俊、木元靖浩  
事務局長：中道民広  
組織部長：木元靖浩  
教育部長：空席、部長代行：中道民広  
国際部長：磯貝尚武  
図書部長：染川隆俊  
編集部長：小西岳、部長代行：相川節子  
監事：加藤木みずえ、山本徹

(p.2より)

## 出張郵便局と記念スタンプ

2日間とも、姫路郵便局の臨時出張所が開設され、切手の販売や郵便物の受付をおこなった。また大会の小型日付印(記念スタンプ)が作成され、会場から送られる郵便物に押印された。

また、前川治哉さん作成の、大会シンボルマークをあしらったフレーム切手、はがき、封筒も販売された。

## サロン・書籍販売

サロンでは KLEG が書籍販売をしたほか、日本大会の受付などがおこなわれた。また、三好鋭郎さんが集めたポーランドの人形34体が展示された。

2014.7





El "Japanaj Malnovaj Rakontoj"  
de YANAGITA Kunio  
柳田國男作「日本の昔話」より (7)

## Fraŭlino Ugvisa (鶯姫)



Antaŭ longa, longa tempo unu maljunulo loĝis en la provinco *Suruga*. Li estis nomata Maljunulo Bambuisto aŭ Maljunulo Ventumilfaristo, laŭ arkivoj, ĉar li sin vivtenis per la metio: haki bambuojn en monto, fari el ili diversajn ilojn kaj ventumilojn.

En iu tago ĉi tiu Maljunulo Ventumilfaristo iris en bambuaron kaj trovis ke en nesto de ugviso unu ovo briladis okulfrape kun aparta lumo. Dum li alportis ĝin plej zorgeme tenatan kaj konservis en sia domo, la ŝelo nature kreviĝis kaj el ĝi aperis tre malgranda sed bela knabino. Li nomis ŝin Fraŭlino Ugvisa, ĉar ŝi estis naskita el la ovo de ugviso, kaj li ŝin edukis kiel sian filinon.

Ŝi pli kaj pli kreskadis kaj baldaŭ fariĝis belega knabino komparebla kun neniu kaj tiel brilegis ke oni donis al ŝi nomon Princino *Kaguya* (Brilanta). De tiu tempo okazis ke en

ĉiu internodaĵo de bambuo hakita de li ĉiam li trovis orpecojn plenplenaj, kaj li, antaŭe tre malriĉa, en mallonga tempo fariĝis granda ĉoĵo.

Multaj venis al la bela knabino de la ĉoĵo por sin svati, sed ili ĉiam ricevis malfacilan enigmon de la ĉoĵo kaj lia filino, kaj senkapablaj solvi tion ili embarasite reiris al sia hejmo. Lia Mikada Moŝto, kiu tiam estis sur la trono, aŭdis ke ŝi estas brileganta belulino, kaj profitante sian ĉasvojaĝon honoris ilin per sia vizito al ili. Kaj li provis ŝin persvadi ke ŝi iru al la ĉefurbo kaj fariĝu lia edzino; ŝi tamen, oni ne sciis kiel ŝi pensas, forrifuzis ankaŭ ĉi tion.

Oni diras ke en la vespero de la dekkvina de aŭgusto en ĉi tiu jaro, kiam la lunlumo estis la plej klara kaj serenigis la tutan ĉielon, venis blanka nubo al la domo de la ĉoĵo por konduki ilin al la ĉielo, kaj Princino *Kaguya* kun sia patro foriris de la monto *Huzi* al la ĉielo. Tiam ŝi omaĝis al Lia Mikada Moŝto iuspecan drogon de senmorteco kun aldonita jena utao:

Nu, jam adiaŭ!

Al Via Moŝt' Mikada  
mi simpatias,  
dum kun la vest' ĉiela  
mi staras preparata.

Oni diras ke Lia Mikada Moŝto multe afliktiĝis antaŭ tiu utao; kaj li diris ke la drogo de senmorteco estas jam tute senutila por li, kaj li ordonis, ke oni alportu ĝin sur la supron de la monto *Huzi*, la plej proksiman al la ĉielo, kaj bruligu ĝin tie. De tiam oni ekhavis legendon ĝis multe pliposta generacio, ke la brulado sur la supro de tiu monto nomata *Huzi* (senĉeso aŭ senmorteco), estas dumlonga restaĵo de la fumo, kun kiu oni bruligis la drogon. (Miyamoto masao)

☆ Ugviso: birdo kun bela kantado, kiun oni foje tradukis 'najtingalo', sed ilia esenco tute diferencas: *Horeites cantans cantans*.

☆ La monto *Huzi* nun estas dormanta vulkano.



## 韓国のエスペランチストに 出会う

庄山美喜子 (熊本県)

3月中旬、韓国での「戦争と女性の人権ツアー 4日間」に参加した。その後、私のエスペラントの先生とその友人のお世話

で、ソウルのミンミンさんとドウミナさんのお宅に3日間泊めて頂いた。ミンミンは韓国エスペラント協会の職員で社会学と言語に関心を持っているようだった。ドウミナは健康と医学に興味があるようだった。ようだったとしか書けないのは、まだエスペラント語が良く解らず推測で受け取っていたからだ。エスペラントを学び始めてまだ半年、呑気な私も会う日が近づくにつれ、この程度の学習では折角出会うにも失語症になるに違いない、相手の方に悪いなあと胃が痛くなった。ところがホームステイ先のミンミンさん、ドウミナさん共に勤が良い。とても親切で穏やか。私のめっちゃめっちゃなエスペラント語を理解して下さるし、その上褒めて下さる。深い話はもちろんできないが、お互いの思いは伝わった気がする。

私が定年まで図書館司書だったことを伝えると、リプロさん他2名の方が待っていてソウル市民図書館(旧市庁舎で資料館を兼ねていてソウルの精神理念が良く解った気がする)を案内して下さいました。また地方都市に出かけ韓国、ドイツ、日本人が集い英語、ハンゲル、ドイツ語、エスペラント語が飛び交う中、湖畔を散策し、歌を歌い、ミュージアムを訪ね、夜はペンションでバーベキューをしながらワインを飲み、語り合ったのも不思議な時間だった。

帰国して2週間後、小倉での第24回国際エスペラント合宿に参加した。日本人はもちろん、韓国、中国、オーストラリアの熱心な学習者に圧倒されながら楽しい2日間を過ごした。もっと話せば・・・の思いを強く持った合宿だった。

私はいつも希望のあるところに向かっていこうとする習いがある。エスペラントを学び始めたのもその一つだ。見も知らぬお互いを受け入れ希望を語り合えるのもエスペラントという共通言語があるからだ。

私のエスペランチストとしての活動はまだ始まったばかり、皆様どうぞよろしくお願ひします。

2014.7

初心者のための

## 語尾なし単語の使い方 (19)

相川節子

本来副詞 (27) **plu**

「さらに続けて」「さらに先へ」という意味の副詞です。時間的な「先」にも空間的な「先」にも使うところは、日本語と同じです。

Ni iru plu laŭ la rivero.

(川に沿って、もっと先まで行こう)

Zamenhof laboris plu por plibonigi sian lingvon.

(ザメンホフは自分のことばを改良するためにさらに作業を続けた)

plu は初心者には使いにくい単語に見えますが、実は ktp. または kaj tiel plu という形で本でも雑誌でもよく出会っています。kaj tiel plu を直訳すると「そして、同じように、さらに」となります。つまり「その他いろいろ」ですね。

最近では, plusendi という合成語をたびたび目にします。電子メールでエスペラントを使う方ならおなじみかもしれません。「さらに先へ送る」つまり「転送する」という意味です。

Mi plusendas al vi ret-leteron de s-ro Kimura.

(木村さんの電子メールをあなたに転送します)

似たような合成語に, pludoni があります。自分が受けとった物や情報を、さらに次の人に渡すことです。“Vojaĝo kun Katrina” という本に、教師の Katrina がひとりの生徒からある知らせを受け、それをクラス全員に伝える場面があるのですが, Katrina pludonas tiun informon al siaj lernantoj … と書かれています。余談ですが, Katrina シリーズ3冊のうち、個人的にはこの物語がいちばん好きです。

ザメンホフの用例を見ると, plu は否定文でよく使われています。ne や neniam など、否定の表現をとまなう時は、「この先は～ではない」「これ以上は～しない」という意味になります。

…mi petas vin, ne nomu min plu “majstro”…

(今後わたしを majstro と呼ばないでください)

第8回世界大会での、ザメンホフの演説です。実は前後に長い文があるのですが, plu がある部分だけを抜き出しました。

ザメンホフはこの大会を最後に、エスペラント界での公的な立場を辞退し、開会式での演説もやめました。

## KER 試験受験記

木元 靖浩 (奈良県)

この度 KER (Komuna Eŭropa Referenckadro) 試験を受験した。言わば「EU 共通外国語能力検定試験—エスペラント語」。レベル B2 で受験料は現在のレートで 5,565 円。3 時間。(私には足りないぐらいであった。)

受験に先立ち、受験勉強をした。苦手な前置詞である。Mi partoprenas en . . . はわたし的には al だと思うが郷に入れば郷に従え。en に妥協しよう。しかし、何で Mi petas de vi なんだろう。頼むのは相手に向かってだろう。相手から私が頼む?。Morto rabis al ni multe el niaj . . . 私に向かって奪う?。私から奪うのじゃないの。一体ザメンホフの頭の中は、いや、欧米語使用者の頭の中はどうなっているのか。この辺りを腑に落とし込まないと KER 試験には勝てない。で、参考書を探して KLEG を訪ねた。一冊あった。「エスペラント前置詞略解 小坂狷二」である。買って少し読んだ。しかし山は外れた。接尾辞・接頭辞が出た。まあいい。どうせ勉強しなかったのだから。

さて、辞書はエスペラント—エスペラント辞書のみ持込み可である。勉強しない私も 2 冊持っている。一冊は Plena Ilustrita Vortaro de Esperanto kun Suplemento。外観は日に焼けて古色を生じている。しかしページを開けば手の切れるような真っ新である。もうひとつは、小さな Plena Vortaro de Esperanto。昔、大本の合宿に行ったとき、今は亡き三ツ石清さんの授業で「この辞書は小さいから散歩にも持って行ける。眠たくなってそこらで横になる時、枕にもなるから便利だぞ。」との勧めで買ったものである。試験場で開いたら何と読めない。字が小さすぎる。当時は読めていたのに。

試験問題はこんな感じ。あなたはエスペラント大会に参加して mantelo を忘れてきた。それを rehavi したい。実行委員会に手紙を書きなさい。或いは、文中の空欄に単語があるがそれに接尾辞・接頭辞を付けて意味の通じる文に仕上げなさい。また、例文がありそれを説明するそれぞれの文の正否を答えなさい。等々。つまり、社会人になって散々受けたマークシート式の試験(防火管理者とか衛生管理者とか)ではない。学校にいた頃の試験である。数十年ぶりに体験出来て何やら懐かしい思いをした。

就職の際、履歴書を書き資格欄には何やら書く。これは何らかの意欲があり、成就する根性がある(あるいはあった)証明のようなものである。KER 試験

の能力検定など最適だ。面接の際、このユニークな検定試験について面接官との会話が盛り上がり好印象を与え、就職が成功する。よって、就職を目指す学生たちにより KER 試験には門前市をなして然るべきだと思う。まあ、無理かな。

## Esperanto-Seminario, Yumenosima

KIRIYAMA Masaaki(Ôsaka)

Mi partoprenis en la 47-a Esperanto-Seminario, Yumenosima, kiu okazis de la 3-a ĝis la 5-a de majo. Seminariejo estis "Tokia Sporta kaj Kultura Domo," kiu staras proksime al la stacidomo *Ŝinkiba* en Tokio.

35 personoj partoprenis en ĝi kaj 4 klasoj estis aranĝitaj, nome Elementa, Meza, Meza kaj Alta, kaj Memstara. Mi lernis en la Meza Klaso, kies instruisto estis sinjorino *Aleksandra WATANUKI*.

En la klaso 11 personoj partoprenis, kaj ni havis 5 fojojn da lecionoj. *Aleksandra* klare kaj zorgeme instruis al ni gravajn vortojn kaj esprimojn, kiuj estas necesaj por ĉiutaga reala vivo, ekzemple pri vetero, parto de korpo, en la kongresejo, hobbio, kaj tiel plu. Oni ne nur respondis pri demandoj de *Aleksandra*, sed ankaŭ prezentis sian partneron al ĉiuj klasanoj, konversaciis pare supozante iun scenon, enketinte prezentis sian rezulton. Per tiuj ĉi variaj programeroj ni gaje kaj ĝoje lernis praktikajn kaj efikajn esprimmanierojn.

En la dua tago posttagmeze ni ekskursis en la Parko *Yumenosima*. Ni promenis malrapide, ĝoje rigardante belajn florojn kaj tropikajn arbojn, babilis kaj fotis. Samtage ni havis la Gajan Vesperon, kaj ĝuis kvizon, muzikon, kaj ludon.

Mi povis havi tre utilajn tagojn, ĉar mi preskaŭ ne havas ŝancon aŭskulti kaj paroli Esperanton vid-al-vide en kutimaj tagoj. En la klaso oni uzis nur Esperanton, kaj eĉ en la restoracio, en la dormoĉambro, oni klopodis paroli plejble esperante. Mi kore sentis, ke mi ja estas en esperantujo. Mi certe partoprenis en la venontjara seminario, kaj volas, ke pli multaj junuloj kaj alilandanoj partoprenu en ĝi.

**spegulo:** Glata brila surfaco de vitro k.s. kiu reflektas lumradiojn kaj donas bildojn de objektoj.

*Dormemas tuta la naturo,  
La lag' ebenas kiel spegulo.  
Rebrilas en ĝi vesperruĝo  
Kaj kampofajro sur l' insulo.*

**sperta:** Posedanta sciojn el praktikado kaj observado kaj kapabla uzi ilin.

*Kiu estas sperta,  
Ofte estas lerta.  
Kaj spertulo ofte  
Estas sukcescerta.*

**spiri:** Entiri aeron en la pulmojn aŭ eligi aeron el pulmoj.

*Per la kruroj homoj iras,  
Per la nazo homoj spiras,  
Per l' okuloj homoj vidas,  
Per la buŝo ĉion diras.*

**stacio:** 1 Loko ĉe vojlinio, kie haltas publikaj veturiloj. 2 Loko por konstantaj sciencaj esploroj. 3 Loko, kie funkcias aparatoj aŭ maŝinoj por konstanta servo: Televida *stacio*, Radio-*stacio*.

*Radiostacio informojn dissendas,  
Fervoja stacio la tajnojn atendas,  
Sciencstacio faradas esplorojn,  
Polica stacio popolon defendas.*

**stari:** 1 Resti sur la piedoj aŭ genuoj. 2 Resti senmove, senflue, senire.

*Kiel lertas la infanoj!  
Ili staras sur la manoj!  
Iuj longe tiel restas.  
Ilin laŭdas samlokanoj.*

**stato:** Maniero, en kiu io estas: solida, likva, gasa *stato* de materio; malriĉulo en mizera *stato*.

*Tertremo trafis lian fraton,  
Kaj malbonigis la vivstaton.  
La dom' disfalis, brutoj mortis,  
Fajrego donis plian baton.*

## 東北エスペラント大会日程変更

第 55 回東北大会の日程と会場が変更になった。

日時:2014 年 11 月 2 日 (日) 午後 3 時~3 日 (月、祝日) 午後 4 時。

会場:岩手県民会館、JR 盛岡駅から徒歩 30 分、バス、タクシー 15 分(バスは県庁市役所前下車 2 分。〒020-0045 盛岡市内丸 13 番 1 号 電話 019-624-1171)  
宿泊:盛岡北ホテル (県民会館のすぐそば。〒020-0023 盛岡市内丸 17-45 電話 019-625-2711)

参加費:一般 4000 円、身障者 2000 円、不在参加 2000 円。

宿泊費 10000 円、昼食代 1000 円。

参加申込:イーハトヴ・エスペラント会 (〒020-0016 盛岡市名須川町 11-18 佐々木律子方、メール mia-kato-kuu.ricu-58@indigo.plala.or.jp)。

振替口座:02200-1-57913 イーハトヴ・エスペラント会 東北大会と明記して下さい。

主催:イーハトヴ・エスペラント会、東北エスペラント連盟。

## 下関市の大学キャンパスで講習会

JR 下関駅から山陰線で 7 つ目の梅が峠(うめがとう)駅前にある梅光学院大学のキャンパスで、44 の芸術・文化・研究・福祉団体の「結いの会」が催す集りがあり、エスペラント図書館の新田隆充さんが 5 月 17 ~ 19 日にエスペラント講習をした。本は使わずパソコンや単語カードを駆使して。新田さん手作りのクッキーと紅茶付で 500 円。開催期間中は 60 人が足を止めて話を聴き、受講・聴講は 16 人にのぼった (5 人のエスペランティストを含む)。

クッキーとお茶を飲みながら 30 分から 1 時間、一度に 2 名程度の少人数制だったことも、今回のやり方に合っていたと思う。受講者のうち希望した人には広島エスペラント会から寄贈された『20 のポイントで学ぶ国際語エスペラント入門』を進呈した。

エスペラント図書館に寄贈され登録済みの約 1000 点と未登録分の本をすべて並べても、旧図書館 3 階の極々一部をわずかに専有するにとどまり、まだまだこれからといえる。なおエスペラント図書館事務室及び展示室には 2 階の 206 号室を使用中。講座はこの 206 号室でおこなわれた。[←田平正子・新田隆充]

## 第 63 回関西エスペラント大会速報

日時：2015 年 6 月 20 日（土）～ 21 日（日）  
 会場の空きの都合で、やや遅めになりました。  
 会場：京都市国際交流会館  
 南禅寺の近くの静かな環境です。

### La 63a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo

Dato: 20a kaj 21a de junio, 2015

Loko: Internacia Komunuma Domo de Kioto

### ロイ・ビッシュジトさん NHK ラジオ出演

日本盲人エスペラント協会 (JABE) 正会員 ロイ・ビッシュジトさんが NHK ラジオ第 2 「聞いて聞かせて」 5 月 18 日（日）19 時半～ 20 時に出演。再放送 25 日（日）7 時半～ 8 時。 [←町村（本田）照美]

### 関西エスペラント大会前後の Reza さん

関東エスペラント大会と関西エスペラント大会に招待されたインドネシアの Reza Pahlevi さんは、大会前日の 5 月 30 日に来日。神戸エスペラント会会員の案内で神戸を観光したあと、関西エスペラント大会に参加。大会終了後、奥脇俊臣さんの案内で亀岡へ移動。

6 月 2 日は大本本部を見学し、夜は京都のエスペラント会館で行われた「エスペラントおしゃべり会」に出席した。

6 月 3 日は数人のエスペランティストの案内で京都（二条城、金閣寺）と奈良（大仏と鹿と二月堂、近鉄奈良駅の立飲み）を観光、夜は南宇治コミュニティーセンターで開かれた宇治城陽エスペラント会の例会に出席。翌日京都駅前まで茶道の茶せんと抹茶を買って、関東へ移動した。

### KLEG（関西連盟）委員会報告

5 月 18 日 13 時 30 分から豊中市公民館で。出席 18 人、委任 7 人。議長：島谷剛さん（池田）書記：堀田裕彦さん（枚方）。主な報告審議事項は① 2013 年度活動報告、2014 年度活動方針② 2013 年度決算、2014 年度予算③ 連盟規定類の改訂④ 役員改選⑤ 第 62 回関西大会（はりま）⑥ 第 63 回関西大会（京都）⑦ 第 46 回林間学校⑧ 第 101 回日本大会⑨ 部局報告⑩ ロンド報告など。

## 宮崎エスペラント会が講演会

5 月 15 日木曜日に宮崎エスペラント会の浜田健三さんと荒瀬早幸さんが、宮崎市恒久の南部病院で職員を対象にエスペラントについての講演会。参加者は 20 名ほど。

### 第 46 回エスペラント林間学校は京都で

毎年恒例の林間学校を今年も開催します。初心者から中上級者までを対象に皆さんが参加しやすい 1 泊 2 日の日程で、通学も可能な会場で行います。また、分科会も募集しますので、ふるって提案してください。

1. 日程：2014 年 9 月 13 日（土）～ 14 日（日）
2. 会場：京都エスペラント会館（京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6）電話：075-343-3120
3. クラス構成：初級「会話」（Ce Juna さん）、初級「語尾なし単語」（相川節子さん）中級「輪読」（島谷剛さん）、上級「翻訳」（タニヒロユキさん）。() は講師。

#### 4. 主要プログラム

13 日 13 時 受付・開校式

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| 13 時 30 分～ 15 時 30 分 | 学習①           |
| 15 時 30 分～ 17 時 30 分 | 分科会①          |
| 17 時 30 分～ 19 時      | 各自夕食          |
| 19 時～ 21 時           | 分科会②          |
| 21 時～                | 就寝又は Paradizo |

14 日 9 時まで各自朝食を済ませて集合

- |            |      |
|------------|------|
| 9 時～ 12 時  | 学習②  |
| 12 時～ 13 時 | 各自昼食 |
| 13 時～ 15 時 | 学習③  |
| 15 時       | 閉校式  |

#### 5. 参加費

学習 1 コマ 2000 円

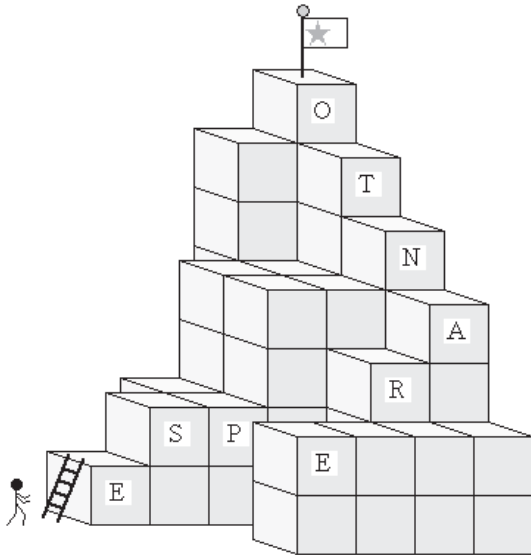
分科会だけに参加 1000 円

割引：KLEG 会員、遠距離、青年、障害者など。

6. 食事：各自周辺で買って会場でいただきます。
7. 宿泊：各自予約ください。  
会場に近い旅館・ホテルは別途紹介します。
8. 主催：一般社団法人 関西エスペラント連盟
9. 申込・問合せ：同上  
本誌 8 月号に別刷りの Informilo を挟み込みますので、参照してください。

# Enigma

Redakcio



Vi staras sub la labirinto el kuboĵ. Vi povas utiligi la eskalon, per kiu oni povas grimpi nur unuopan nivelon.

Kiom da fojoj minimume vi uzu la eskalon por atingi la nivelon de la verda flago?

Respondu paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

**La solvo al la maja numero: Petro.**

Se Karlo estas mensogulo, li devis mensogi, ke li estas honestulo. Se li estas honestulo, li prave deklaris sin tia. Ambaŭkaze Karlo diris, ke li estas honestulo. Tial Petro mensogis kaj li estas mensogulo.

La ĝustan solvon donis 3 legantoj: 西千寿子, 中村文雄, Kacu.

\* Aldono al la solvintoj de la aprila numero: CA.

## 楽しい作文教室 (37) 成績

17 人の方から応募がありました。( ) 内は留意事項です。

うん、良いね : Eiko, Ĉielo(kiujn), AG, 水渡, Kiri, CA, Dalpengi.

良いね : T.Ku, Drako(sen ke -us), alfa(selena), ikona(ricikligu), M.H., Fumi, Ivajo(pinglojn), ヒー坊(akzamenon).

もうひといき : Lv-rivero, festo(pinglon).

がんばろう : 無し。

## KLEG 事務局だより

★ 5月31日、6月1日に姫路で46年ぶりに開催された第62回関西エスペラント大会で

は、例年どおり KLEG 書店が開設され、221,870 円の売上がありました。どの本がよく売れたかは、次号で報告します。

★書店の開設、運営には、事務局の大西真一さん、大畑賀代子さん、田熊健二さん、東藤薫久さん、図書部の染川隆俊さんのほか、相川節子さん、沖恵明さん、佐々泰弘さん、福本博次さん、藤巻謙一さん、堀田有里さん、吉川奨一さんのご協力を得ました。

★総会で定款が改定され、「賛助会員」の名称が実態にあった「個人会員」に変更されました。また「理事でない専門部長も委員会に出席する」よう委員会規定が変更されました。

### KLEG後援会へのご寄付

(2014年5月、敬称略)

匿名	10,000 円
Kacu	5,000 円
清川正義	2,895 円
中道民広	2,580 円
野々村耀	805 円

### KLEG後援会にご協力を

関西エスペラント連盟 (KLEG) は、数十年間会費や購読料の値上げをせずに、エスペラント界ではまれな機関誌年12回発行を続けています。しかし、残念ながら会費や行事収入、図書の売り上げだけでは、日常的な経費もまかなえません。しかも、4月からは消費税も増税されました。

もちろん KLEG は日常活動に加え、青年活動支援やアジアの運動支援などさまざまな活動にも取り組んでいます。また、パソコンやソフトの更新も待たなしです。

これらの活動を支援するため、「関西エスペラント連盟後援会」(振替口座 00940-1-26233) へのご寄付をお願いします。今月号に振替用紙を挟みこんでいます。

なお、この振込用紙は、後援会専用ですので、会費や書籍代金の送金などには使わないでください。

### 訃報

前田米美さん (1920.5.15 ~ 2014.4.6、享年 93 歳)

1934年に中学校2年生で小笠原誉至夫主催の講習会(日本国際協会和歌山支部子供部国際日曜学校)エス語講習:講師は広島高等師範学校学生の奥村林蔵)で学ぶ。1938年和歌山緑丘会設立に参画。戦後緑丘会の活動を再開して、会の中心としてエスペラント講習会を行うなど活躍した。長らく緑丘会の機関誌「Verda Monteto」を編集・発行した。ここ数年は活動から遠ざかり、老人保健施設に入所していた。

## Mikspot (当欄は敬称略)

☆ ヨコタ村上孝之『二葉亭四迷 くらばってしまえ』(ミネルヴァ書房、2014年)の「第四章革命と二葉亭」に、「1 エスペラントと平和主義」の節がある。また参考文献の資料一として、二葉亭がポストニコフに寄贈した『世界語』見開きページを紹介。 [←後藤斉]

☆ 高橋新太郎セレクション3『集書日誌・詩誌「リアン」のこと』(笠間書院、2014年6月)に「62『閨秀新誌』と『エスペラント』」。 [←後藤斉]

☆ 宮沢賢治『虔十(けんじゅう)公園林』が株式会社 budori から、日本語、英語、エスペラントの3言語による対訳絵本として刊行された。エスペラント訳は(故)松田周次で、藤巻謙一が補訂 [←後藤斉・柴山純一]

☆ 鉄道ジャーナル 2014-07、77ページにある写真に、釜石線の各駅にはエスペラントの愛称駅名が付されており釜石は「ラ オツェアーノ」日本語にすると大洋だ、という説明がある。 [←山崎基弘]

☆ 朝日新聞5月24日(土)朝刊 Be 版 e5 ページ「元気のひみつ」がヘンリー・ミラーと結婚していたピアニスト、ホキ徳田を紹介。文中に「父徳田六郎さんは国際連盟勤務を経てNHKの解説委員となり、エスペラント語の普及に尽くした。」とある。 [←西千寿子他]

☆ 5月24日(土)付の読売新聞道南版に苦小牧エスペラント会の記事。13日の例会に記者が来て取材した。1ページの半分近いスペースに参加者、教材の写真、エスペラントの解説、歴史、代表者(星田)の写真と活動の説明が出ている。 [←星田淳]

☆ 朝日新聞6月1日の姫路版に「関西エスペラント大会46年ぶりに姫路で開催」として、開会式の写真入りの2段の記事が載った。1日午後1時からの公開番組も「大阪観光大学の橋弘文教授とアレクサンドラ綿貫さんの講演や、シンガー・ソングライター野田淳子さんのエスペラント語を交えたミニコンサートがある。いずれも無料。」と紹介。 [←中道民広]

☆ 先月号で紹介した青年エスペラント誌“Pašo”の第2号“Pašo N-ro 2”が5月末に発行された。新入生紹介、エスペラント語の出会いなどの他、ジブリ映画「かぐや姫の物語」の感想など内容は多彩。PDFで配布 (<http://pasxo.blogspot.jp/>)。

☆ 6月1日付朝日新聞の連載記事「プロメテウスの罠」に、福島で有機農業を続けている宗像幹一郎の記事。「念願の野菜直売店『えすぺり』を開いた。

エスペラント語で『希望するという意味だ』とある。 [←前畑典弘、田平正子]

☆ 大原社会問題研究所雑誌666号(2014年4月号)の中村修『「市民活動資料」の保存・調査・活用をめぐる』で、日本エスペラント学会が「市民活動資料の所蔵機関・団体一覧」の中に。 [←後藤斉]

☆ 総研大ジャーナル第15号の伊藤鉄也(総合研究大学院大学教授)『「源氏物語」の翻訳状況』の一覧の中に「エスペラント(作成中)」とある。 [←後藤斉]

☆ 九州大学大学院地球社会統合科学府の授業科目「市民自治論」の「授業の概要と計画」に「…加えて、地球的市民自治の可能性を探るために、エスペラントの思想と文法を学習する…」と。担当教員は岡崎晴輝教授。 [←後藤斉]

☆ ゼンショー 東京大学・ベトナム国家大学ハノイ校 日本研究拠点プログラムのページの「ハノイ・ロンド」(日本研究・ベトナム研究勉強会)に以下のような紹介。「ハノイ・ロンド」という名称は、梅棹忠夫が京都で開催していた「近衛ロンド」という民族学の研究会に由来します。ロンドはエスペラントで「集い」を意味しており、ベトナム人、日本人、研究者、一般人がともに集い、真剣かつ自由に議論できる場をつくりたいという想いから命名されたものです。 [←後藤斉]

### 楽しい作文教室 9月号課題 (7月20日締切)

- ①猫は座布団で休んでいる。
- ②彼はコンピューターゲームをしている。
- ③目的を果たすために4人のプレイヤーが助け合う。
- ④なんのためらいもなく、撃たれた仲間を救いに行く。

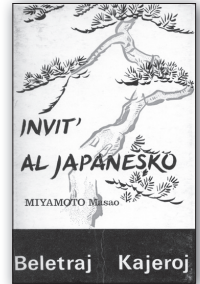
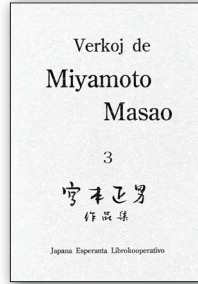
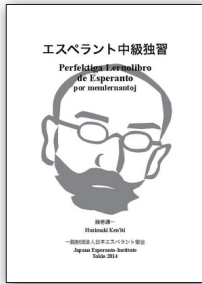
(ヒント) 座布団 kuseno、コンピューター komputilo、ゲーム ludo、プレイヤー ludanto、ためらう heziti、ripozi、plenumi、pafi を調べましょう。日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811  
塚本 猛

[電子メール] [c\\_tak@esperanto.ne.jp](mailto:c_tak@esperanto.ne.jp)  
(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。



★ 新刊・新着 ★

**Esperanto中级独習** 2160円  
藤巻謙一著。長年にわたる通信講座の成果を活かした合理的な練習メニューを満載。『はじめてのエスペラント』『まるとごエスペラント文法』と合わせて三部作がここに完結。例文を朗読したCD(2時間半! MP3形式)付き。B5判、280p。  
※CDはMP3形式です。CDを聞くにはパソコンかMP3形式対応のCDプレーヤが必要です。

**Konciza raporto pri la detruado de Indio** 1800円  
ラス・カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』。16世紀「新世界」でのスペイン人征服者たちのすさまじい蛮行を告発し、植民地支配の実態を伝える。岩波文庫に邦訳あり。A5判、106p。

★ 宮本正男の著作 ★

宮本正男(1913~1989)は本誌を創刊し育て上げた人。7月に没後25年を迎えます。数ある著作から、今回は原作と評論を中心に在庫のある本を紹介しします。

**宮本正男著作集 第3巻** 3000円  
芥川龍之介「羅生門」「地獄変」、田宮虎彦「足摺岬」など翻訳とエスペラント原作作品を収録。

**宮本正男著作集 第4巻** 3000円  
年譜、著作リスト、作品(原作・翻訳)の補遺を収録。※著作集第1巻、第2巻は売り切れです。

**Invit' al japanesko** 300円  
原作詩集。Stafetoが出版した記念碑的著作。

**Japanaj vintraj fabeloj** 100円

青年時代を回想するエッセーと詩。

**La morta suito** 400円  
大杉栄の生涯をオムニバス形式でたどる。

**L'omnibuso kun la tri pasaĝeroj** 200円  
宮本、上山政夫、斎藤英三(挿画)三人の合作集。

**Sarkasme kaj entuziasme** 500円  
エスペラント運動と文学に関する評論集。

**日本文学にあらわれたエスペラント** 800円  
大江健三郎等の作品にみるエスペラントを論じる。

**Skiza historio de la utao** 500円  
古代からの和歌の歴史+「百人一首」(全訳)。

**Vivo kaj verkoj de Miyamoto Masao** 800円  
没後10周年記念追悼文集。Auld、Linsらが寄稿。

★ 好評の Katrina シリーズ ★

**La krimo de Katrina** 400円

**Vojaĝo kun Katrina** 500円

**Katrina malfruas** 500円

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



☆本誌では人名は姓を大文字、名を小文字にするのを原則にしていますが、Rezaさんにうかがうと、Rezaさんのetnoの人たちは姓を持たない、Reza Pahleviの両方を合わせて個人名だとのこと。同じインドネシアでもetnoによっては姓があるが、自分の家は姓はない、とおっしゃっていました。なお、Pahleviは「パフレビ」。hをちゃんと発音するそうです。(島谷剛)

発行所：ラ・モバード社 編集：小西 岳 発行人：北 さとり 定価280円 送料60円 1年3800円 送料共本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204  
電話(06)6841-1928 ファクス専用(06)6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.jp  
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://kleg.jp  
九州支局：九州エスペラント連盟内 818-0105 福岡県太宰府市都府楼南2-8-7 武藤たつこ方 電話(092)923-2877  
中国四国支局：中国四国エスペラント連盟内 734-0041 広島市南区黄金山町7-15 忍岡守隆方 電話(082)286-2745  
印刷人：村上 治道 621-0815 京都府亀岡市古世町北古世82-3 株式会社 天声社